

石川町第5次総合計画策定にあたっての提言

石川町第5次総合計画の策定にあたり「若者まちづくり委員会」は、「協働で築く地域循環型社会の構築」を念頭におきながら、「いしかわ」らしさを模索しつつ、我が町「いしかわ」が目指すべき姿（構築すべき事柄、保全すべき事柄）などについて検討しました。

私たち「若者まちづくり委員会」は、石川町第5次総合計画策定にあたり、若者の視点あるいは若者の実感などを通して、現在の我が町をどのように感じ、どのような魅力を発揮出来得るのか、また、向後10年を見通し、我が町の未来像について様々な議論を重ねてまいりました。「協働」「循環型社会」には様々な解釈や理解が出来ることと思いますが、「若者まちづくり委員会」では町民のみなさんが参加し、関わりを持つことが出来る事柄には「協働」の概念を、人との関わりをとおして様々な良い効果・影響が波及する事柄には「循環」という概念をあてはめながら提言作成の作業を進めてまいりました。

私たち「若者まちづくり委員会」は、3つのグループにより、それぞれ提言作成のワークグループを立ち上げて議論を進めてまいりました。それぞれのグループがそれぞれの視点で3つの提言をまとめあげ

「めんごいいしかわ」

「あいさつの和・輪（みんなが家族）」

「桜と四季の彩りでおもてなし」

としました。

提言 1

グループAの提言

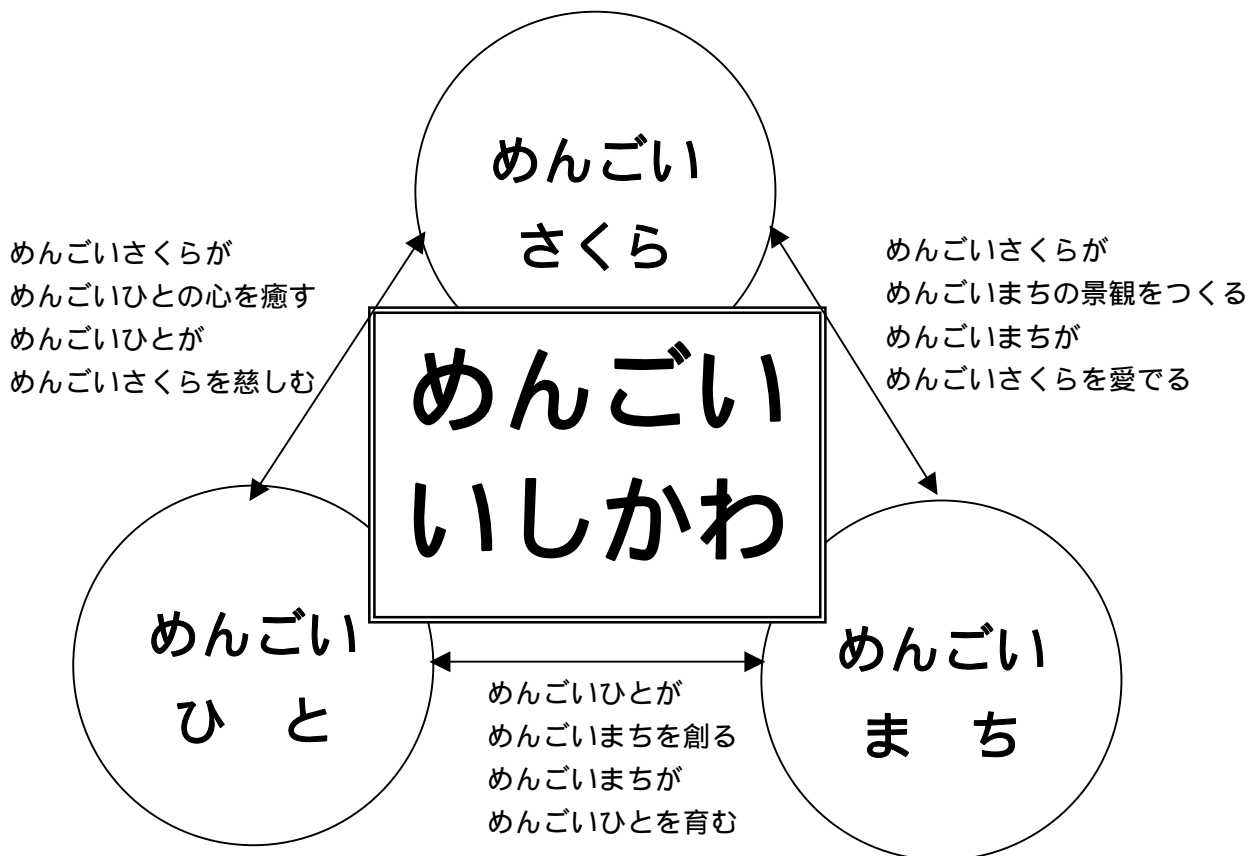
『めんごいいしかわ』

キーワード：「めんごいさくら」、「めんごいまち」、「めんごいひと」

石川町の春は、河川沿いの桜並木が一斉に咲き誇り、素晴らしい景観を形成しています。このような景観の素晴らしい「めんごいさくら」を、補完する要素として、川をキレイにし、ゴミをなくすことにより、「めんごいまち」が出来上がります。また、この「めんごいまち」に、笑顔で明るいあいさつが交わされる「めんごいひと」が住むまちを目指します。

この「めんごいまち」が「めんごいひと」を育て、「めんごいひと」もまた「めんごいまち」を形づくっています。その結果、「めんごいさくら」をはじめ、「めんごいもの」が増えていくような「まちづくり」が出来る町の将来像を期待します。

また、わがまちのイメージを作成しました。



「めんごいいしかわ」再発見

め っけた (見つけた)【いしかわを注目してもらおう・再発見】

ん まい (おいしい・上手)【食・技】

ご っつおあっつお (ごちそうがあるよ)【名物・田舎料理】

い ぢげえにあっつお (たくさんあるよ)

い っぺえあづまれ (たくさん集まれ)【楽しいイベント・まつり・交流・人口増】

し ょっちゅうわらって (いつも笑って)【明るいあいさつ・元気な子ども】

か だってみっぺ (語り合いましょう)【みんなでまちづくり】

わ がまちいしかわ

「めんごいさくら」「めんごいひと」「めんごいまち」が「めんごいいしかわ」を形成する基本的要素として町民のみなさんそれぞれが「いしかわ」を「めんごく」するための小さな行動と、「協働」による社会の充実を具現化できる総合計画の策定を期待します。

また、「めんごいいしかわ」を実現するための要素として、慣れ親しんでいる食の再発見、様々な技術やこだわりによる産業の再評価など、身のまわりに存在する「めんごい」ものに気が付くことが、「めんごいいしかわ」再発見に繋がる第一歩と考えています。

また、「めんごいいしかわ」を構成するものとして、小さなコミュニティでの伝統の継承や、広域的に行なわれる様々な交流(文化・教育・産業など)、あるいは高い技術やこだわりにより生産される農産物の味わいなどをとおして明るく笑って語り合える石川町の実現を希望し提言いたします。

提言2

グループBの提言

『あいさつのWa』

キーワード：「みんなが家族」「みんながレギュラー」

1. 総論

人口減少、少子高齢化、町の財政難などに直面している本町の状況を踏まえ将来を展望すると、決して明るい将来像が描けない中、私たちのグループは、どのようにしたらこの現状を打破し、将来にわたり明るく元気な石川町を築き上げることができるかを目標に議論をしてきました。

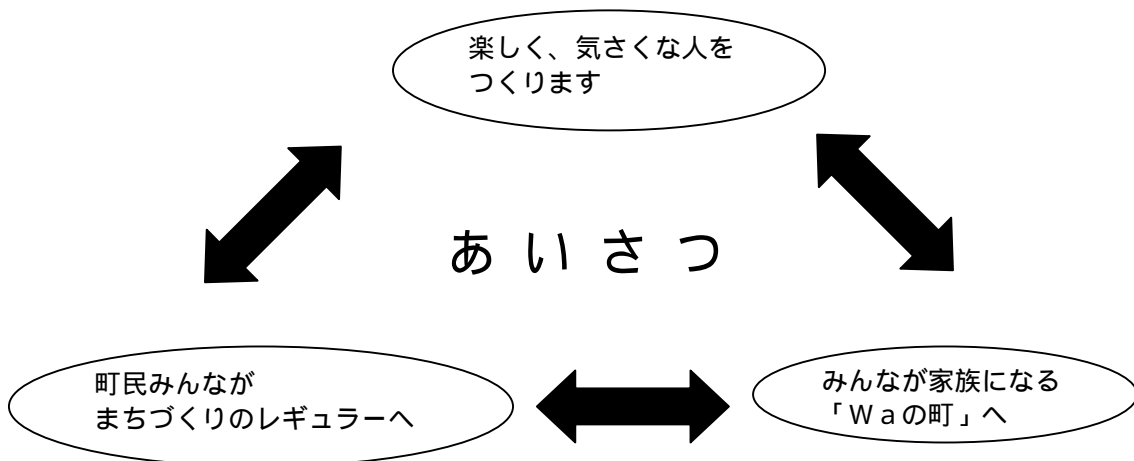
明るく元気な石川町は、楽しく、気さくな人たちが創り上げます。

一人ひとりを楽しく、温かな気持ちにするためのひとつの手段として、私たちは『あいさつ』という行為に注目しました。

あいさつは、一人ひとりの自発的な行動により行われるものであり、前述の諸問題が現在よりさらに進行したとしても、あいさつを通した明るい町を築き上げることではできると考えています。

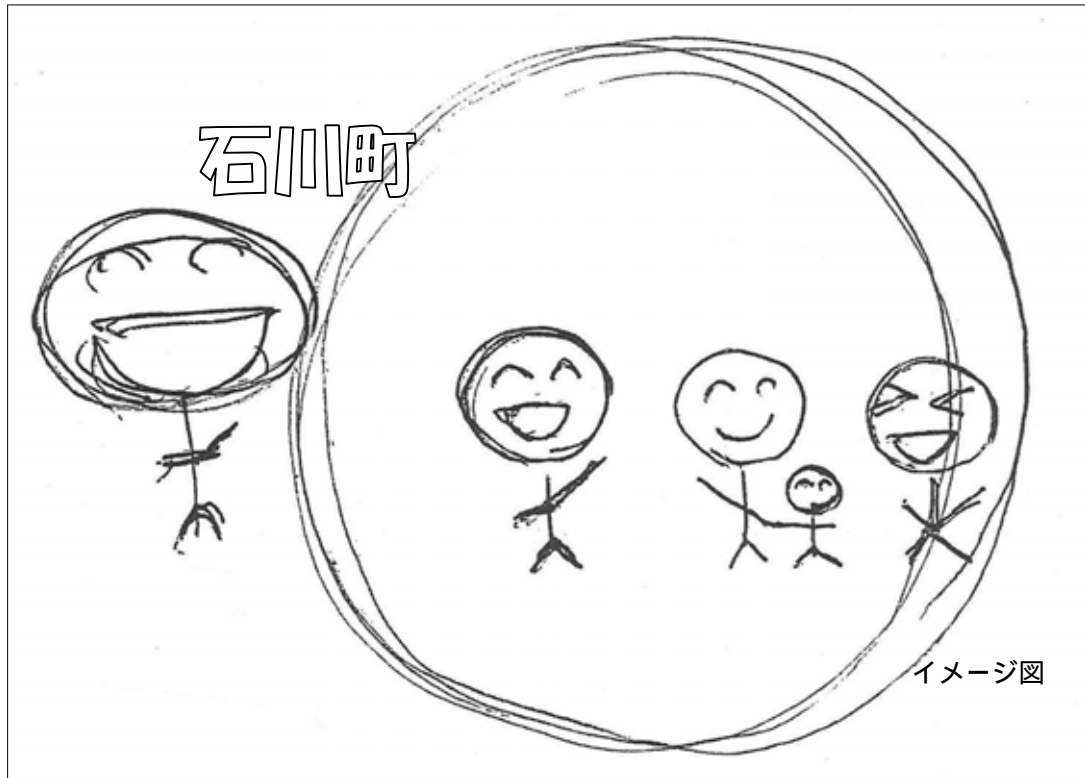
「あいさつのWa」は、『輪』・『和』をイメージしています。あいさつを通して一人ひとりの心が通じ合い「輪」となり、その輪が人々にまるで家族のような「和(なごみ)」の気持ちをもたらします。

みんなの心が「和」で満たされたとき、石川町を訪れた人が「Wa」っと驚くような「明るく元気な町」になっていると確信しています。そして、これが実現できたとき、「みんながまちづくりのレギュラー」となっているのです。



2. 「あいさつ」

石川町を大きな工事などによって装飾（都市化）するのではなく、日常生活の中に身近に存在するあいさつを当たり前に行えば、石川町はさらに元気な町になります。



あいさつは知人同士だけで行われる特別なものではありません。登下校や通勤、散歩の時、ふとすれ違う人同士もお互い同じふるさとを持つ「石川の人」です。気軽に言葉を交わしても不思議なことではありません。

『挨・拶』は、「推して・迫る」という意味です。あいさつは待っていても返っては来ません。自分から、気持ちの良いあいさつをしてみませんか。

石川町には毎日、未来を担う「石川っ子（小学生、中学生、高校生）」の元気なあいさつが飛び交うあいさつの時間があります。子ども達の無邪気な笑顔で元気にあいさつされると、思わずうれしく思い、心が温まります。

普段子どもたちが、私たちにしてくれるあいさつを町民全体に広げ、定着させることで、元気で楽しく、活力と笑顔にあふれる石川の人になると思います。

あいさつを一人ひとりが実行し、ふるさと石川町を誇れる町にしましょう。

3. 石川町の近未来(20xx年11月13日)...行動提言

石川町はいつもと変わらぬ静かな朝を迎えました。

午前7時、石川町に朝を告げるチャイムが鳴りました。

「キンコンカンコン。」...今日のおはようさんはだれかな？

説明しよう！

「おはようさん」とは、広報無線で朝のあいさつを放送する人で、その人を、その日のおはようさんと呼びます。
おはようさんは、毎日変わります。

「㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㊿。下泉の石川きららが11月13日、石川町の朝をお知らせいたしました。今日も一日楽しく過ごしましょう。」

説明しよう！

石川町では、2010年に「石川町のあいさつ」を公募し、独自のあいさつをしています。今では、石川町民すべての合言葉となっています。

午前8時

「㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㊿。」

「㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㊿。じゃあね！」

街のあちこちで、あのあいさつが飛び交っています。

午前10時

「キンコンカンコン。新人戦の結果をお伝えします。石川第二中学校の柔道部が本日みごと県大会を制し、東北大会への切符を手にしました。本日午後3時に南町銀座通りにおいて優勝パレードを開催します。子どもたちを家族(町民)の皆様の笑顔で迎えて下さい。」

説明しよう！

広報無線を活用し、部活動や各種イベントなどさまざまな情報を町民に提供しています。大会などでたとえ優勝できなくても家族みんなでその健闘をたたえ、選手の気持ちも「和」むものです。

午後3時

南町銀座通りは大賑わい。集まった町民の皆様の表情を見ると、お互いに笑顔で会話を楽しみ、多くの人たちがまるで一つの家族のように柔道部の子ども達が来るのを待っています。

説明しよう！

石川町では2010年に制定した町のあいさつ「㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭㊮㊯㊰㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㊿◆」を町民が続けた結果、楽しく気さくな人が増えました。行政も公文書の中で町民を指す言葉として「家族」と記載しています。

午後7時30分 とある居酒屋で…。

10数名の家族が、次の日曜日に予定している「まちなかクリーン作戦」の計画をしています。建設的な意見が飛び交いみんな楽しそうです。

このような会合が以前にも増して町のあちこちで見られるようになりました。『あいさつ』を通して家族のように「輪」となった石川の人たちが、今となっては、石川町を本当に愛し、創り上げていこうとがんばっています。もうすでに、「町民みんながまちづくりのレギュラー」となっています。

あしたの「おはようさん」はだれかなあ…。

4. まとめ

「ふるさと石川町は、自慢できる町です」と、胸を張って言えることが、町民共通の願いです。町民一人ひとりが、まちづくりの主役となり輝く石川町にしましょう。

《町の特産物はあいさつ》となるよう、石川町の全ての人々に【あいさつ】の種を蒔き、【あいさつ】が根付き、【あいさつ】の花が満開となるまちになることを期待し、私たちのグループの提言といたします。

付 記 ~グループ討論の中で~

若者まちづくり委員会の討論は、主にフリートークの中からキーワードを見つけ、そのキーワードについて議論を深めるという手法が採られました。

「石川町」をテーマにグループの討論を進める中で、公共工事などで町並みの景観形成をするのではなく、現状の中にこそ他に誇れるすばらしい資源が潜在していることを確認しました。

主なものを列挙すると次のようになります。

の はおいしい。

118号線の石川駅付近から町中心方向を見ると、桜並木が一望できる。

桜のマップはあるが、桜がきれいに見える地点マップをつくっても面白いのでは。沢田の信号付近のあじさいはきれいだ。

近津神社の参道（福島銀行脇）が、裏路地のような趣がある。

夏に、かき氷やところてん等の店があればいい。

川に沿って桜並木があるので、ボートなどで川から桜を見てもいい。

石川の子どもたちのあいさつはすばらしい。

これらの中から、私たちのグループは「あいさつ」に着目し、あいさつによるまちづくりを提言するに至りました。

委員会の発足当初は、初対面の人たちの集まりのため緊張感が漂っていましたが、回を重ねるにつれて緊張もほぐれ、時には笑い声の上がるような和やかな雰囲気でも議論を進めるまでになりました。

これは、私たちの中に小さな「輪」ができた瞬間で、このごく小さな輪が将来石川町全体を取り囲む大きな輪となり、さらには、「和」から「Wa」になることを願って数回にわたるグループ討論を終了しました。

提言3

グループCの提言

『桜と四季の彩りでおもてなし』

キーワード：「桜」「季節ごとの花」「おもてなし」

石川町の「桜」は町民の多くが愛し、誇りを持つもののひとつです。この「桜」は有形で限りのある「生きた」財産でもあります。この「桜」も先人の努力や先見によって現在の見事な景観を誇っているところとなっています。

この「桜」を後世に残す、あるいは、「桜」に対し町民ひとりひとりが今以上に関わりを持ち、愛着を持つためにはどうした良いのか？ということについて議論を進めました。また、「桜」以外にも四季折々に石川町を彩る景観やおもてなしについてどんなことが提言できるのかについても議論を重ねました。（【資料1】参照）

桜を活かした商品づくりは出来ないか？（例：町内各お菓子屋さんが同一コンセプトの商品を開発し、物産化する。さくら団子、さくらサブレ・・・）

桜の幹、桜の葉、桜の花、桜の樹皮などの持つ付加価値に着目し、視覚で愛でる桜と味覚・嗅覚・触覚に感じる桜の利活用。

桜を育てる・増やす：桜を記念樹にして「一人一桜」として、自分の記念桜が思い出と一緒に成長する。

四季折々の花：桜（春）、紫陽花（初夏）、ひまわり（盛夏）、コスモス（秋）、銀杏など。

銀杏：ギンナンやイチヨウの葉、イチヨウの樹皮などが利用でき、産業（イチヨウの木のまな板など・・・）につながる可能性のあるイチヨウで秋の景観を形成する。公園などにイチヨウの木があればギンナン拾いに訪れる人も増えると思う。

訪れる人に対するおもてなしは「あいさつ」が一番。

さくらづくしの提案

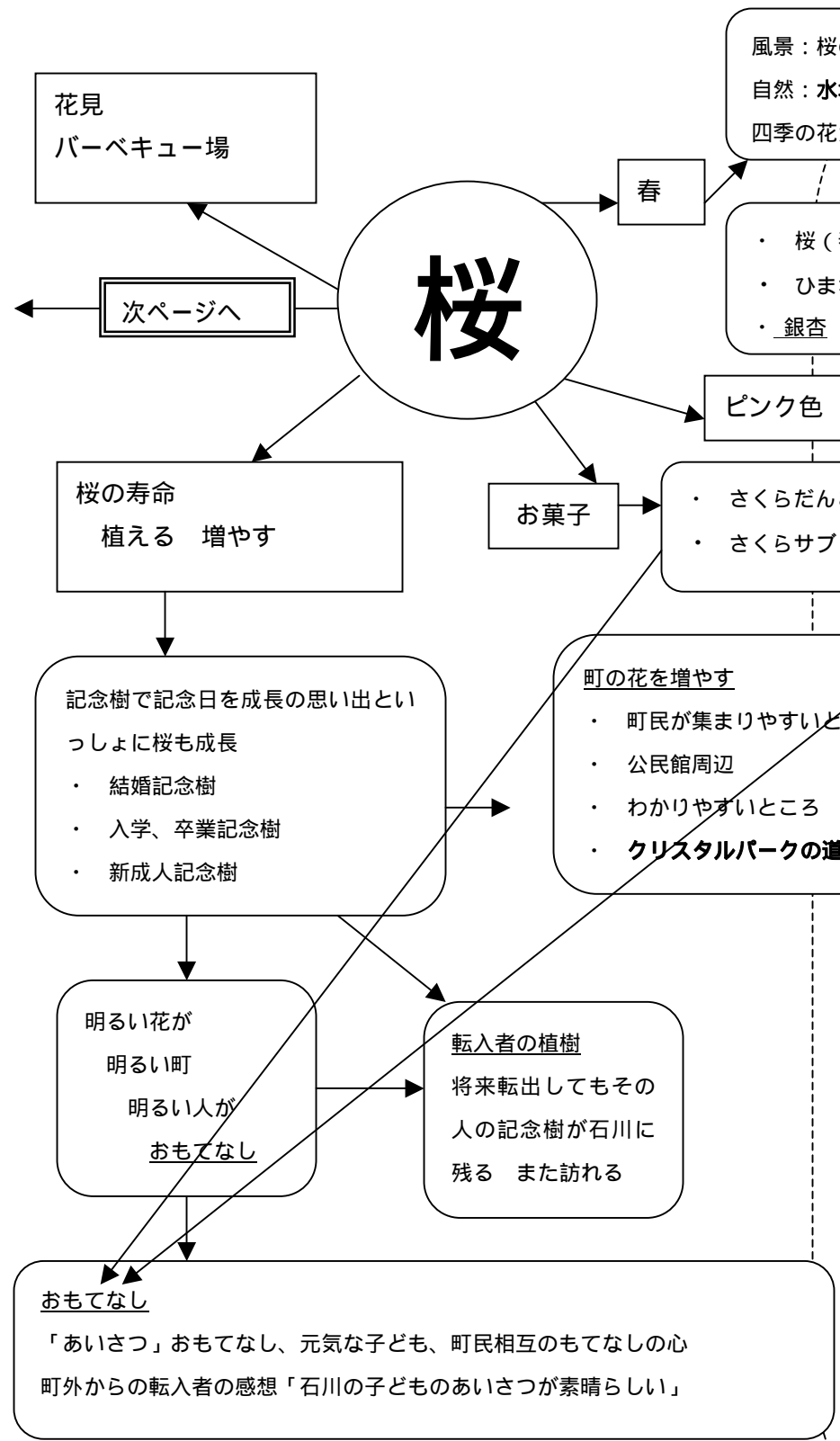
- ・ 桜餅（さくらの葉（塩漬け）を使用し、さくらの花の抽出液の食紅で着色）
- ・ さくら湯（さくら茶：さくらの花の塩漬け、またはさくらの乾燥花弁を用い紅茶風に・・・）
- ・ さくらの花の砂糖漬け（お茶請け）
- ・ さくら風呂（町内の温泉：さくらの樹皮抽出液とさくらの花びらを浮かべて期間限定のサービス）
- ・ さくらのチップ（燻製用・染物用：伐採や枝打ちによる材料を活用）
- ・ さくらのお酒（さくらの花、さくらの葉、さくらの木の樽などを用い独創的なもの）

以上の検討結果を踏まえ、下記のとおり提言いたします。

1. 桜を活かし、保全するまちづくり（「一人一桜」で愛着のある桜を・・・）
2. 彩りのある四季につつまれたまちづくり（総合運動公園の植樹など）
3. いしかわならではの桜を活かした食をはじめとする物産の開拓（名物の醸成）
4. あいさつによるおもてなしのまちづくり（町内の交流・来訪者との交流）
5. イチヨウなどを活用した産業の開拓（食・健康・景観）

以上を第5次総合計画において活用していただきますよう期待を込めて提言いたします。

グループC 提言資料



風景：桜の名所づくり
 自然：水場で遊ぶ（噴水広場を作る）
 四季の花がいっぱい

- 桜（春） ・ 紫陽花（初夏）
- ひまわり（盛夏） ・ コスモス（秋）
- 銀杏

- ピンク色
- さくらだんご
 - さくらサブレ・・・

- 町の花を増やす
- 町民が集まりやすいところ
 - 公民館周辺
 - わかりやすいところ
 - クリスタルパークの道

- 銀 杏
- ぎんなん
 - ぎんなんのお菓子
 - ぎんなんを採りに来る人
- クリスタルパークの道
- ぎんなんの道
 - 桜の街道

いちよう湯
いちよう風呂

ぎんなん：滋養強壮、
せき止め、夜尿症に効果がある漢方薬として
利用されている。

いちようの葉：フラボン
類が多く含まれ、高血圧、
動脈硬化の防止などの効果
があるといわれている。

その一方で喘息等の症状に対する鎮咳去痰作用など薬草としての効力もあり、後述の難破船に遭された銀杏も薬の原料として送られたものであると言われている。火に強い性質があるため、江戸時代の火除け地に多く植えられた。(Wikipedia :フリー百科事典「イチョウ」より)

イチョウ葉エキスとは、その名の通りイチョウの木の緑葉のエキスで、世界55ヶ国で医薬品として取り扱われていますが、日本では一般食品（健康食品）として扱われているもので、ドイツ、フランスでも医薬品として認可されており、フランスでは全医薬品中の売り上げ1位となっています。また、イギリス、アメリカでは Ginkgo の呼び名でブレインフード（健脳食）として販売されています。ヨーロッパで作られるイチョウ葉エキスの原料はそのほとんどが日本から輸出されていて、その量は毎年 1,000 トンにも及ぶといわれています。

ヨーロッパにおいては、イチョウ葉エキスは血液循環改善剤として認可されており、脳血管障害、痴呆症患者に対して投与されています。また、ハーバード大学と UCLA の研究者が、アルツハイマー症の患者に Ginkgo エキスを 52 週間投与したところ、プラセボ群に比較して有意に認識力の向上が見られたと米国医学会誌（JAMA）に報告しています。また最近、勃起不全治療剤バイアグラの代替としてイチョウ葉エキスが注目されており、イチョウ葉エキスを 1日 600mg 摂取した患者が 6～8 週間で性的機能を回復したという報告がなされています。

イチョウ葉エキスの成分として、フラボノイドが 24 %、テルペノイドが 6 %含まれることが分かっていますが、残りの 70 %の詳細は不明であるとのことですが、イチョウ葉エキスには 13 種類のフラボノイドが含まれており、そのうちの 6 種類（ギンケラチンやイソギンケチン）は二つのフラボノイドが結合した二重フラボンです。これらのフラボノイドは、強力な活性酸素（フリーラジカル）消去作用と血管拡張作用をもっています。また、イチョウ葉特有の成分としてギンコライト、ギノライド、ピペライドなどがあり、ギンコライトは抗炎症作用を持つため、イチョウ葉エキスはアレルギー症状の改善にも有効と考えられています。

イチョウの木のまな板

一般に、まな板にはイチョウやヒノキ、サワラ、桐、カツラなどが使用されていますが、イチョウが最高だと言われています。イチョウは、木自体に殺菌力があって衛生的な上に、油分があるので水に強く、水はけがよくにおいが残りにくいとされています。また、木質が柔らかくて板にした時に刃当たりがよく、包丁を傷めないという特徴もあります。

良いまな板は一生ものです。表面が減ったり、傷がついたらカンナをかけて薄くなるまで使えるというもので、食の安全・安心あるいは長く使用することにより環境対策としても効果があると思われる。

イチョウ（銀杏、公孫樹、学名：Ginkgo biloba）は裸子植物の一種。
 裸子植物門イチョウ綱の中で唯一の現存している種である。
 西白河郡泉崎村では村の木になっている。

- 生産地ベスト10（生産高順） -
 愛知、大分、**福島**、新潟、佐賀、岐阜、愛媛、高知、徳島、石川

イチョウの実（正式には種子）である銀杏はギンコール酸などを含み、漆などのようにかぶれなどの皮膚炎を引き起こすので注意が必要である。また、食用とする種の中身にはビタミン B6 の類縁体 4-O-メチルピリドキシンが含まれているが、これはビタミン B6 に拮抗して GABA の生合成を阻害し、痙攣などを引き起こす。特に 5 歳以下、10 歳以下の場合には要注意である。大人でも 1 日最多 4 粒程度が摂食の目安となる。但し、毎日取り続けてはいけなく、20 個も食べると危険とも言われる。食糧難の際、大量に摂取したために死に至ったという例もある。

桜の活用例

器具、家具(和風)、楽器、ひきもの、彫刻など。

多数の種類、品種がある。木材として利用される量は少なく、むしろ貴重な材料。木材の保存性は高く、加工はしやすいとされています

桜材のチップ

燻製用のチップ材(桜・樺・林檎などが代表的)、桜染めの材料

桜の花

桜の花の花粉には、[エフェドリン](#)という興奮剤の成分が含まれているそうです。お酒が入ってなくても、なんとなく気分が高まってくるのはそのせいかもしれません。エフェドリンには咳止めの効果もあるのだとか。また、桜の花びらは二日酔いにも良いといわれる。

桜の花の塩漬け: 花弁はお祝い事などで出される「桜湯(桜茶)」や料理の飾り付けに使用される。

桜の花の砂糖漬け: お菓子(応用編として桜の葉のレモン蜂蜜漬けというものもある)

エフェドリン(英: Ephedrine)は、[鬱血除去薬](#)(特に気管支拡張剤)、または局部麻酔時の低血圧に対処するために使われる交感神経興奮剤で、[漢方医学](#)で生薬として用いられる[裸子植物](#)の[マオウ](#) *Ephedra sinica* Stapf (麻黄)に由来する[アルカロイド](#)である(ウィキペディア (Wikipedia): フリー百科事典「エフェドリン」より)

塩酸エフェドリンは、交感神経興奮効果を利用した様々な用途に使われている。現在では、主に感冒薬(風邪薬)を中心として、薬効をよりマイルドとした誘導体である *d*-塩酸メチルエフェドリンが、気管支拡張剤として使用されている。(Wikipedia : フリー百科事典「エフェドリン」より)

エフェドリンは交感神経刺激アミンである。おもに、[交感神経系](#) (SNS) の一部の[アドレナリン受容体](#)に間接的な影響を及ぼす。[アゴニスト](#)として -及び -アドレナリン受容体の活動を弱める間、主として[シナプス前細胞](#)において [ノルアドレナリン](#)を[シナプス小胞](#)から移動させる。移動させられたノルアドレナリンは、自由にシナプス後細胞の受容体と結合する。(Wikipedia : フリー百科事典「エフェドリン」より)

エフェドリン(1932年に発売されたもの)

伝統的な漢方薬治療においては、何世紀もの間エフェドリンが気管支喘息と気管支炎に使われてきた(ford, 2001)。西洋医学においてエフェドリンは、以前は局所の鬱血除去剤、および気管支喘息治療のための気管支拡張剤として幅広く使われてきた。この薬の入手性が困難となり、副作用の徴候が判明し、さらに他の薬が選択肢として登場した後も、この薬はそれらの治療のために使われ続けている(Joint Formulary Committee: JFC, 2004)。鼻づまりへの適応は、より強力な -アドレナリン受容体[作動薬](#)(例えばオキシメタゾリン oxymetazoline、商品名ナシピン)に交替された。同様に、喘息への適応は、2-アドレナリン受容体作動薬(例えばサルブタモール salbutamol、商品名[サルタノール](#) [インヘラー](#)など)にほぼ交替された(Wikipedia : フリー百科事典「エフェドリン」より)

桜の葉

桜は、葉も利用できます。桜の葉を塩蔵すると、分解してクマリンという物質が生成され、独特な芳香がしますので、桜餅などに使われるほか、桜の葉を入浴剤として用いると、あせも等に効果があるといわれています。

桜の葉の塩漬け: 桜餅に使われている

桜の葉っぱには[クマリン](#) (C9H6O2)という芳香成分が含まれています。生葉を塩漬けにすると独特の甘い香りを発するようになります。あの食欲を刺激する「桜餅の香り」、とても癒される香りです。

クマリン: **クマリン** (coumarin) は[化学式](#) C₉H₆O₂ で表される[有機化合物](#)、[ラクトン](#)の一種。常温では無色の結晶または薄片状の固体。当初は[トンカ豆](#) (*Tonka bean*, *Dipteryx odorata*) という植物の種子から分離されていたが、1876年にウィリアム・パーキンが合成に成功。現在では香料および軽油識別剤として用いられている。クマリンは桜餅の香り成分として知られ、[芳香族化合物](#)の一種。シナモンの香り成分の[シンナムアルデヒド](#)や[ユービー](#)の香り成分である[カフェー酸](#)とともに知られている。また、誘導体の[ワルファリン](#)、[クマテトラリル](#)、[フマリン](#)は[ビタミン K](#)と拮抗して抗凝血作用を示すため、[抗凝固剤](#)や[殺鼠剤](#)として用いられる(Wikipedia : フリー百科事典「クマリン」より)

桜の樹皮

細工ものは樺細工と呼ばれている

桜湯(樹皮を煮出し煎じて使用する)

1: ソメイヨシノ、ヤマザクラ、オオシマザクラいずれでもOK。夏に樹皮をはぎとり、刻んで日干しにしておきます。

2: 乾燥した樹皮 50g を布袋に入れま



3: 布袋を鍋に入れ、水から 15~20 分間煮出します。

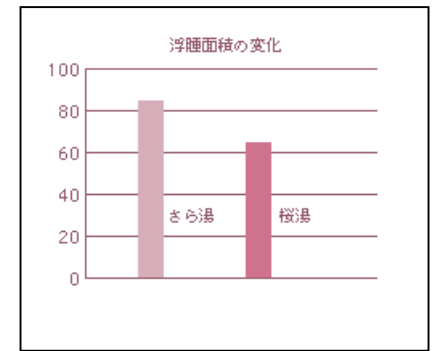


4: 煮汁は布袋ごと浴槽に入れます。



5: 彩りに花びらを浮かべると風情がでます

桜の樹皮を煮出した桜湯には消炎効果がみられ、湿疹、打ち身などの炎症に、濃く煎じた液を塗ると効果があります。実際に浮腫(はれもの)のできたラット(試験用ネズミ)を用いて、それぞれ「さら湯」と「桜湯」に3回入浴させた後、浮腫の面積の変化を測定しました。その結果、「桜湯」のラットの方が「さら湯」に比べて浮腫が小さくなり、炎症を抑える働きがあることがわかりました。(東京ガス株式会社 都市生活研究所調べ)



「桜茶」というものがあります。これは、桜の花びらを使うのではなく、樹皮を煎じて飲むもので、食中毒や食あたりなどに効果 があるといわれています。さらに樹皮の抽出エキスは、咳をしずめ、タンをとる作用もあるため、市販のシロップ剤などに配合されています。また、湿疹や蕁麻疹などに、煎じ液で患部を洗うとよいとされています。これに使う桜は、主にヤマザクラで、この樹皮を剥いで、外面のコルク層を取り除いた内皮を天日で乾燥します。これを生薬の「桜皮(オウヒ)」といいます。江戸期の医者である「華岡青洲」が、創った十味敗毒散は、中国より伝わったある処方を変えたものとされており、この改変の際に桜皮を採用したそうです。なお、現在使われている十味敗毒湯には、桜の皮の代わりにボクソク(クヌギ又はその他近縁植物の樹皮)を用いることもあるようです。

さくら祭り

さくらづくしの提案

- ・ 桜餅(餅の部分にはさくらの花の抽出液の食紅で安全な着色料を使用し、さくらの葉(塩漬け)で包む)
- ・ さくら湯(さくら茶: さくらの花の塩漬け、またはさくらの乾燥花弁を用い紅茶風に・・・)
- ・ さくらの花の砂糖漬け(お茶請け)
- ・ さくら風呂(町内の温泉: さくらの樹皮抽出液とさくらの花びらを浮かべる。またはさくら祭りの会場でさくらの足湯など・・・)
- ・ さくらのチップ販売・実演(燻製用・染物用: 伐採や枝打ちによる材料を活用)
- ・ さくらの花やさくらの葉を利用した焼酎など(さくらの花の二日酔いに対する効能を活かしてみる)または、さくらの木を用いて作った樽で保存し、香りとお色を付与する)

これらの提言を活かし、第5次総合計画の基本テーマである「協働で築く地域循環型社会の構築」の実現に向け、町民のみなさんが自主的・自発的にまちづくりに参加できる仕組みの構築を期待します。

併せて、私たちの「いしかわ」において潜在的に有する地域の固有の要素や特徴、歴史的・社会的な地域の財産を活かした「地域づくり」を核に、町民と行政の協働による「まちづくり」の推進を期待し、私たち「若者まちづくり委員会」提言といたします。

平成19年11月13日

石川町長 加納 武夫 様

若者まちづくり委員会

若者まちづくり委員会名簿

グループA	グループB	グループC
中澤裕一	高原久雄	中島 徹
桑沢裕宗	吉田英弘	芳賀 誠
小木秀治	酒井理江	円谷龍一
志賀 好	遠藤崇典	鎌田 慧
吉田由加利	西牧 恵	瀬谷裕美
		山田英司
事務局 大竹 実		

若者まちづくり委員会提言までの活動

1. 第1回 平成19年6月19日(火)
(委嘱状交付式・第5次総合計画説明会・KJ法によるテーマの拾い出し)
2. 第2回 平成19年7月11日(水)
(KJ法により、石川町の特徴のクローズアップ)
3. 第3回 平成19年8月2日(木)
(懇親意見交換会)
4. 第4回 平成19年8月28日(火)
(3班により提言に向けてのアイデア交換)
5. 第5回 平成19年9月24日(月)
(タウンウォッチング:和久鉦山跡 小和清水 レークサイド遊歩道 中田区各地)
6. 第6回 平成19年10月2日(火)
(提言に向けての方向性の確認)
7. 第7回 平成19年10月18日(木)
(提言策定最終会議)
8. 第8回 平成19年11月13日(火)
(町長宛 提言書提出)